



雪に埋もれたらいてうの家

今年、大津波の余波のなかで迎えようとは思ってもありませんでした。そのうえ「安全」と宣伝されてきた原発がもろくも壊れ、被曝を逃れて避難先を求めなければならぬとは！被災地の会員さんをはじめ、昨年福島の日母親大会で私たちを迎えてくださった東北の方がた、そして関東地方のみならず、

でも、こんなときだからこそ思い起こしたいことがあります。らいてうは、1923年の関東大震災を東京千駄ヶ谷で経験しまし

た。幸い自宅は無事でしたが、幼い子らとともに道端に布団を持ち出して夜明けを待ったそうです。死者・行方不明者14万人以上、全焼家屋44万户以上という悲惨さに、らいてうもショックを受けますが、やがてこの大危機の前に、これまでの社会で失われていた「人間的ないっさいのもの」が、すなわち「相愛共助」「協同一致」の精神がよみがえったことを見出します。被災者の救護や孤児になった子どもたちの救済などを、立場の違う女性団体や個人が協力してすすめる姿に、「新しい社会建設には、男性だけでなく女性も力を出すこと」と確信するのです。「女性が主人公になる協同自治社会」の訴えは、男女共同参画社会のさがげでもあり、すべての戦争に反対して憲法九条を守るといふ平和思想の原点にもなりました。

それから90年近くたって見舞われた大震災。国の支援の遅さや原発を推進してきたことへの疑問など、批判は多々ありますが、なによりもまず被災したのものしなかつたものも、大人も子どももみんな助け合い、励ましあって、今「生きていく」命を守るうとして現実に立ちましよう。今年の総会は、らいてうの願った「人間的ないっさいのもの」を取り戻すために、会はどう活動したらいいかを考え、話し合う場にしたいものです。

平塚らいてうの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

「人間的ないっさいのもの」のために 第12回総会にあたって

平塚らいてうの会会長 米田佐代子

第12回通常総会と らいてう忌のご案内

今年はいくつか意味でも、『青鞥』100周年を記念するのにふさわしい年だと思います。総会后左記のとおり「らいてう忌」のつどいもいたします。どうぞご参加くださいますことを。

日時 2011年5月14日(土) 13時

会場 東京ウイメンズプラザ視聴覚室

審議事項 ①10年度事業報告と決算報告

②11年度事業計画と予算(案)

③役員選出 他

らいてう忌 15時「祖母らいてうの思い出」

お話し 築添美可さん、美土さん(らいてうのお孫さん)

「紀要 第4号」―『青鞥』創刊百周年特集号

―6月発行予定 乞うご期待

特集「百年のわたしのメッセージを聴く」。堀場清子さん、クリスティン・レイヴィさん、もろさわようこさん、『青鞥』やらいてうゆかりの方たちのエッセイなど、興味深い内容です。ご期待下さい。

協力企画 国際シンポジウム

今、世界が読む『青鞥』

日時 2011年9月10日(土) 1時〜5時
会場 日本女子大学 百年館

らいてう講座

石橋湛山の女性論―青鞥百年に寄せて

講師・山梨平和ミュージアム 浅川 保さん

東京は何年ぶりかの大雪でそのすぐあと、負けじと春一番の強い風が街行く人びとを驚かせました。そんな2月26日、東京文化会館で「らいてう講座」を開きました。テーマは今年だからこそその「石橋湛山の女性論―『青鞥』百年に寄せて」。

講師は湛山研究の一人者、「山梨平和ミュージアム・石橋湛山記念館」理事長の浅川保さんです。浅川さんは昨年、学習会の方々と「らいてうの家」を訪れてくださいました。

湛山の母校に赴任して

浅川さんは高校で日本史を教える教師でした。湛山の母校、甲府一高に赴任、在職中に湛山の中



学時代の文章を次つぎに発見、その内容の素晴らしさに衝撃を受け、すっかり湛山にとり憑かれてしまったそうです。退職後、記念館建設に献身、湛山研究を深めておられます。湛山については、「昔、

首相だった人」「自民党の人」というくらいに認識の方が多いと思いますが、郷土山梨では唯一総理大臣になったということ以上に、むしろ「一切を棄つるの覚悟」と植民地放棄を主張するなど、「大正から昭和の時期に小日本主義・自由主義の立場で筆を執り続けた言論人」として名を馳せており、2006年には石橋内閣成立50年にあたり、「偉大な言論人・石橋湛山展」やシンポジウムが各地で開催されたそうです。湛山は東洋経済新報社社長、立正大学学長という経歴もあります。

湛山の女性論

湛山とらいてうは直接的接触はなかったが、大正デモクラシー、戦後の民主化に果たした役割は大きく平和主義思想など共通点が多いと浅川さんはいい、「石橋湛山全集」やその他の著作から「女性論」にかかわる論説をリストアップ、100年も前に「女性の政治参加、教育や生産など社会への進出が日本の進歩にとって急務であるとして、社会状況の客観的資料をもって女性解放論を展開した、湛山の思想の先駆性について述べられました。らいてうや湛山の主張は現代に多く生かされているけれども、この二人の「志操」を受け継ぐことがいま私たちの最も大きい責任です、それには課題を架け橋として多くの人と知り合い、自分をきずくことです、と浅川さんは熱く語られ最後をしめました。

密度の濃い充実した講座に、勇気がわいてくる一日でした。

(木村康子)

「らいてうの家」 イベント案内

▼ウイッチュツリー展示

ウイッチュツリーに、詩・俳句・短歌・川柳・随筆・感想・警句・批評・その他なんでも書いてあげましょう。短冊とツリーを用意しておきます。

4月29日(金)茶会とコンサートで「家」オープン。

11時から13時 茶会(点心付800円) 要予約

13時から15時 歌を楽しむ会秋山洋次郎&スプ

リングスタース

6月25日(土)らいてう講座Ⅰ 14時〜15時30分

講演「森田草平を語る」小宮山量平さん||小宮

山氏は理論社の社長として灰谷健次郎や倉本聡を

育てた人。晩年の森田草平を知っています。

会場 エディタースミュージアム(上田駅2分)

6月26日(日)らいてう講座Ⅱ 14時〜16時

講演「『青鞥』の時代と今の私たち」米田佐代子

館長 会場 真田図書館(上田市真田町)

7月24日(日)森の講座 笹刈りで汗を流し、昼

食後「森の育て方」の講習をうけます。

4月オープンの「らいてうの家」

『青鞥』創刊100周年を記念し

今年特別企画のパネルを展示

今年度の「家」では「元始女性は太陽であった―『青鞥』を生きた女性群像」として『青鞥』の発起人、賛助員、応援団の男性、青鞥社員などを紹介。『青鞥』が多様で多彩な女性たちの活躍の場であったことを紹介します。ぜひ「家」にどうぞ。

ふかふかの雪にまみれて 雪見とスノーシュー



さあ、これから出発！

雪の中の「らいてうの家」を見たいとはじめられた冬の催しも、今回で4回目となりました。日本列島が寒気に包まれた1月30日、お二人のインストラクターの案内で、太陽も出て、時折ちらつく雪の中を元気いっぱい出発しました。スノーシューの一步一步がキュツ、キュツと音をたて、倒れても良質の粉雪は衣服をぬらしません。木立の中で休息。降りたての雪に練乳をかけた自然のアイスクリームのふわふわ感、口の中でたちまち溶けてそのおいしさは格別でした。「しなの木」が雪の中で幹を広げ、7月に花が咲くと一面レモンの香りが漂うとの説明に、7月にはまた来ようと思いました。スノーシューはスキーよりも歴史が古く、はじめは板のようなもの

だったこと、「樫」の字の言われなどを学習し、あつという間の2時間は過ぎてしまいました。ホテルに戻って、浅間山を眺めながらの露天風呂は疲れも癒され、最高の気分でした。翌日は、窓から朝日に輝くダイヤモンドダストや、屋根から下がるツララを眺め、雪の中の「らいてうの家」見学組と、スノーシューで「らいてうの森」の調査組とに分かれての行動。「家」の丸窓には雪の結晶が花を咲かせ、森ではカモシカの足跡が沢山見られ、冬のあずまや高原を最高にたのしむことができました。(植草充代)

真田図書館が完成しました

小林登美枝さん寄贈コーナーも
上田市との合併前より、真田町民が望み、建設運営研究委員会をたちあげ進めてきた図書館が、昨年11月ついにオープンしました。

図書館サポーターとして、中学生や多数の人が登録し、地域で支える図書館としてボランティア活動を行っています。児童サービスコーナー、真田氏ゆかりコーナー、女性史コーナー、特に小林登美枝さんの寄贈コレクションコーナーが設けら



上田市立真田図書館のご案内

上田市教育委員会

れ、文化の拠点として、交流の場として活用されています。(花岡静枝)

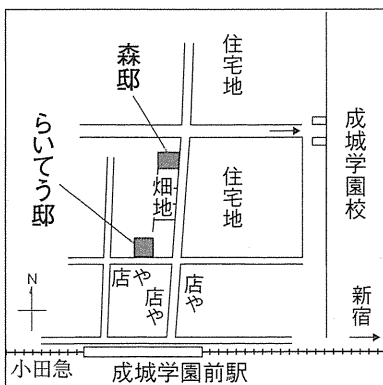


榎田ふきさん
没後10年のつどい

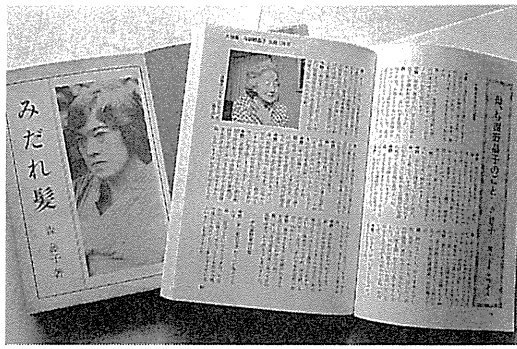
2月13日、都内で表記のつどいがひらかれ、各界より百名余が参加。らいてうのお孫さん奥村直史さんや、平塚らいてうの会より米田佐代子会長がごもごも思いを語りました。

【4面より続く】

森さんが描いてくださった地図をみると、ほんとうに二分と離れていないところにお住まいだったのでですね。なお、らいてうのお孫さん奥村直史さんによると森さんが鶴沼に引っ越される時、「フルートを吹く父のために、当時貴重品だったバッハの管弦楽曲2番のSPレコードをプレゼントしてくださいました」そうです。それにしても「は



にかみや」だったらいてうのほうから訪問したとは！「どちらも穏やかな人柄」という森さんの思い出を大切にしたいと思いました。(米田佐代子記)



森藤子著『みだれ髪』と雑誌
与謝野晶子生誕130年特集より

らいてうさんと隣組

森藤子さんの思い出

『青鞥』創刊号に「そぞろごと」（「山の動く日来る」）を寄稿して出発を祝った与謝野晶子—その末子にあたられる森藤子さんが、なんと成城でらいてう一家のすぐ近くに住んでおられたことがあるとか。お年は召されたけれどお元気で、昨年、晶子生誕一三〇年記念の雑誌『短歌』にもご登場！ さっそく紙上インタビューをお願いしました。

○ りいてうは昭和のはじめ成城の駅前之家を建て、昭和一七年に疎開、昭和二二年に帰京するのですが、森さんが成城にお住まいになったのはいつごろでしょうか？

— 成城に最初に家を建てたのが昭和一六年です。その後建て替えるまで一時目で白に移り、また戻ったのが昭和一八年で、二七年まで住みました。

○ りいてうさんにお会いになったのはいつ

ごろですか？

— 昭和一六年に家が建ち、移ってまもなく訪ねて下さいました。家を建ててくださった方が駅近くにお住まいで、古い方ですから、前もってお耳に入っていたのでしよう。それから昭和二七年ごろ今の住まいがある鶴沼に移りますまで、ずっと隣組のおつきあいをさせていただきました。

○ りいてうのほうから訪ねてこられたのですか？

— そうです。まだ荷物も全部片づかないうちに、真つ先にお訪ね下さいました。白いお花を持つて。

○ お会いになられたときの印象は、いかがでしたか？

— 個人的には私は全く存じ上げなかったのですが、青鞥社の方としてお名前は知っていましたから、そう驚きはしませんでした。穏やかな方だと思えました。これは終生変わりませんでしたね。

○ お二人は「母性保護論争」で対立したといわれますが、どちらも女性が自由に生きる理想社会を追求するという点で共通していたと思います。晶子さんはらいてうさんをどう思っておられたでしょう？

— 数日後、母を訪ねて平塚さんがいらして下さったことを伝えましたら、前年から脳溢血で臥床中の母は一寸驚いたようでしたが、ほう、そうと申しました。どちらも穏やかに、お互いを想う様子でした。母が亡くなりましたのは、翌昭和一七年でした。

【3面下段に続く】

【事務局日誌】

- 1月7日 「榎田ふきさん没後10年のつどい」実行委員会に出席
- 1月14日 第5回理事会開催
- 1月18日 記録映画を上映する理事会出席
- 1月23～25日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 1月30日 あずまや高原雪見とスノーシュー
- 2月2日 「平塚らいてうの会」らいてうの家」の将来を考えるプロジェクト会議
- 2月3日 「榎田ふきさん没後10年のつどい」実行委員会に出席
- 2月10日 紀要第4号編集会議
- 2月13日 「榎田ふきさん没後10年のつどい」開催（於主婦会館プラザエフ）
- 2月21～23日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 2月24日 第57回日本母親大会実行委員会に出席
- 2月26日 りいてう講座「石橋湛山の女性論」講師・浅川保さん（於東京文化会館）
- 3月2日 「榎田ふきさんのつどい」実行委員会総括会議に出席
- 3月2日 治安維持法同盟女性部・春を呼ぶつどい出席 米田会長講演
- 3月4日 第4回常任理事会
- 3月6～8日 小林登美枝さん資料の整理作業
- 3月13日 婦人民主クラブ創立65周年記念のつどいに出席
- 3月24日 NHKラジオ深夜便（午前4時）に米田会長出演
- 3月25日 第6回理事会開催
- 3月27～29日 小林登美枝さん資料の整理作業